企画書

力を入れる優先度

最低ライン

最優先・戦闘モーション

絵コンテ

AとBのモデル

追加ライン

ジャンル

ファンタジー

ニーズ

主人公の成長

概要

ビビリな主人公が勇気を出してピンチになった

もう一人を助けるために立ち上がる

コンセプト

主人公が何度も失敗しながらも勇気を出して

もう一人を助ける友情成長劇

世界観

環境

人間以外が大きく成長を遂げてモンスター化している為そのモンスターたちと戦う職種がある世界

経済

安定しているように見えるがモンスターたちにいつ破壊されてもおかしくない状況

技術

武器や防具が飛躍的に進歩しており、それでモンスターと戦っている

文化

服は、機能性が重視されている

交易

5つの国（仮）がありそれぞれの国で交易を行なっている

交通

車の様に小回りがきかないものではなくバイクが主流になっている。

長距離の移動では飛行可能な船で移動する

登場人物

キャラA

キャラB

キャラC

キャラD

モンスターA

モンスターB

                        4人+2体

あらすじ

目的；キャラAの不甲斐ない性格を変える

手段；自分について考えざる負えない環境を作る（怒ったりして）

キャラ設定

キャラA    （この話の主人公）

行動、事実

性格がわかる過去

・あったからモンスターが怖い

現在の職業、仕事内容

・ハンター、自分の身を守るために大きな武器または盾を持っている

空いた時間の使い方

・

周りからの評価

キャラB・幼なじみ

予想される人物像、自分の中での定義

要点を挙げた性格

・臆病者

流儀、こだわり

・

評価基準

・

目的

・立派な守護者になること

キャラB 設定

・キャラAと幼なじみ

・キャラAと同じときに守り人を始める

・第1にキャラAのことを考え行動している

・普段はしっかりしているがたまにぬけている

・年齢 Aと同じ

・武器はサポートをするために小さな武器

キャラC    設定

・新人

・年齢 17~19歳

・

キャラD    設定

・ベテランまたはお店のオーナー

・年齢 45~48歳ぐらい

・色々なことを知っている

・

エピソードプロット

プロローグ

    キャラCが落ち込んでいるそこにキャラＤが現れて少し話してからキャラAとBのっ昔ばなしを始めて本編へ

本編

    キャラAがモンスター化した生物にびびってなにもできずに逃げ回って早２．３年それをそばで見ていたキャラBがキャラAがその状況から克服できるような環境をつくり克服するまでの話

エピローグ

    キャラCはキャラDからその話を聞き少し勇気をつける。最後にキャラAとBの現在を見せて終わり

ステージ１

最低モデル3人

ドラゴン2匹

声優6人

ナレーション

作戦説明

鳥海「」

代永「うわぁっ！」

代永が転ぶ。

鳥海「ったく」

鳥海「どりゃ！せいっ」

モンスターを倒した鳥海

代永「ごめん…また足引っ張っちゃね」

鳥海「気にすんなよ、お前の世話なんかもう慣れたもんさ」

代永「うん…ごめん…」

鳥海「おいおい何度も謝んなよ、お前がモンスターの狩りが苦手なのは知ってんだ。最初のガードは頼りになるし、危険な時は無理せず下がればいい。その代わりまたうまいもん作ってくれよな！」

代永「…うん」

代永『僕は代永翼臆病でいつも助けられてばかりで情けない奴さ、この人は鳥海浩輔。通称：とりさん 僕の幼なじみで小回りが利く僕の中では一流ハンター』

鳥海「いやーしかしそこそこいいやつ狩れたな。これなら2,3日は持つだろう。だがこれじゃあデカすぎて持ち運べねえな。そうだ運び屋にでも連絡とるか。」

回想

代永『狩りができない料理も微妙でコミュニケーションもとれないからか誰にも相手にされなかった僕だった。そんな僕のパートナーになってくれたかけがえのない存在』

打ち上げ花火を準備して放つ

代永『今でもかけがえのないパートナーで一緒にいて楽しいでも…』

鳥海「よし連絡完了。おい代永！……？」

代永『いつも足を引っ張てばっかりで何も手助けできてない。こんな弱小な僕と一緒に居続けてもいいのだろうか』

代永に近づく鳥海

鳥海「おーい。き・こ・え・て・る・か？」

代永「えっ何？」

鳥海「ったく一応任務中なんだぜ？ボサッとすんなよ。とりあえずさっき倒したモンスターがデカくて運べそうにねーから運び屋を呼んどいた、それまで待機。いいな？」

代永「うんわかったよ」

鳥海「重さとしては運べなくはないが、運んでる最中にモンスターにでも襲われたら、食料と一緒に俺たちも食われちまうなハハ」

代永「…」(少しうつむく)

鳥海「あー。そんなに気を落とすなって。どんなお前でも見捨てたりしねーよ俺は」

鳥海「見捨てられる苦しみは俺一人で十分だ」(振り向いて小声)

代永「えっそれって…」

鳥海「なんでもねーよ おっ！きたきた」

代永「ずいぶん砂ぼこりが舞ってるみたいだね」

鳥海「いやな予感がするぜ」

運び屋と巨大モンスターが近づいてくる

鳥海「まずいよけろ！」

突進してくる巨大モンスターの横を避ける

代永「は、早く洞窟に逃げよう」

鳥海「すぐ逃げるのはまだ早い。まだ運び屋が敵を引き付けている。その間に俺たちは食料かついで洞窟避難。その後合図でも送ればこっちに向かってくるこの作戦でいいな」

代永「うん分かった」

モンスター中を二人で運ぶ

洞窟前までたどり着いたが、思った以上に運び屋が早くこっちに来てしまい衝突

衝突しながらも巨大モンスター以外は洞窟内に入り身を隠す

鳥海「みんな無事か」

代永「う、うん」

運び屋「なんとか助かったぜ」

鳥海「運び屋のおっさんも何とか生きててよかったな。まあもう少―しおとりになってもらった方がドタバタせずに済んだけどな」

運び屋「そんな無茶苦茶なこと言うんじゃね」

鳥海「へへっ さてとこの後どうすっか」

洞窟入り口前を右往左往している巨大モンスター

鳥海「まだこっちの気配に気づいてなさそうだ。今のうちに荷物を積んでおくか」

「」

作戦鳥海:モンスターおびき寄せ・代永:運び屋の援護

↓

鳥海:おびき寄せるがうまくいかず絶体絶命の瞬間

鳥海『また見捨てられちまったな… いや今回は見捨てちまった方だな。』

代永がかばい攻撃を耐え続ける

↓

鳥海がおさえぎみの怒りで説教をしようとしたとき

↓

代永「ああ怖いさ体が縮こまって動けやしない…」

鳥海「だったら…」

代永「でも！モンスターよりも鳥さんを失うことが一番怖かった！」

鳥海「！！」

代永「いつも優しかった鳥さんが、いつもそばにいてくれた鳥さんが、いなくなるって考えたら苦しくて辛くて指を加えて待ってるなんでできないよ！」

鳥海「代永…」

代永「死んでほしくない！いなくなってほしくない！また一緒に冒険がしたい！だから僕は！僕の力で鳥さんを守るんだ。」

強く押し込まれる代永「うぐぅっ」

代永「こんなところで死なせてたまるかー」

鳥海「…へへっ ちょいとばかしお前さんをなめてたぜ そして」

モンスターをひるませる攻撃をする

鳥海「俺もなめられたもんだぜ」

鳥海「こんなところで死ぬような俺じゃねんだよ たく」

代永「とりさん…」

鳥海「そんじゃ俺たち二人でぶっ倒してやろうぜ」

代永「うん」

↓

巨大モンスターとの対決

↓

打ち倒し帰る